

東谷農村歌舞伎

高松市香川町東谷地区に伝わる歌舞伎。言い伝えでは、文政年間（1818～1830）に、徳島へ藍染の出稼ぎに行った若者が覚えてきた芝居を、氏神の祭礼で演じたのが始まりで、やがて娯楽として近郷に招かれて演じることが増え、「下谷歌舞伎」として知られるようになったという。

座長制がなく、自らの小屋を持たず、依頼を受けて小屋掛けを行うこと特徴としていた。

2001年以降、地元の平尾八幡神社境内横に、地区住民の支援で「農村歌舞伎小屋祇園座」が建てられ、毎年5月に定期公演が行われている。

1965年に香川県無形民俗文化財に指定される。